

ごみの出し方や分別に関する市民意識調査報告書【概要版】

○調査の概要

本調査は、市民のごみの出し方や分別等に関する考えなどを把握することにより、現在、久喜市が進めている新たなごみ処理施設の整備のための基礎資料を得ることを目的とし、アンケートを実施した。

調査対象：久喜市の住民基本台帳に記録された
18歳以上の者（平成29年12月1日現在）

抽出方法：単純無作為抽出

調査方法：郵送配付、郵送回収

対象者数：4,000人

実施期間：平成30年2月9日（金）～2月23日（金）

<回収状況>

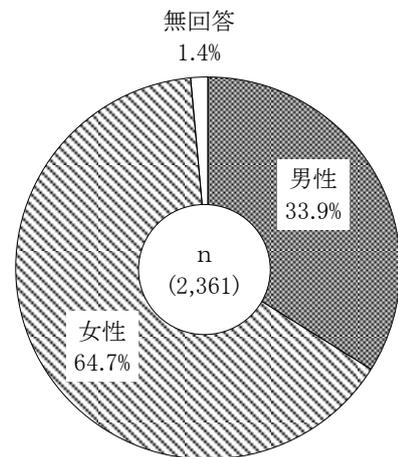
発送数	回収数	回収率
4,000件	2,361件	59.0%

※グラフに使われる「n」は、各設問に対する回答者数である。

○調査対象者の属性

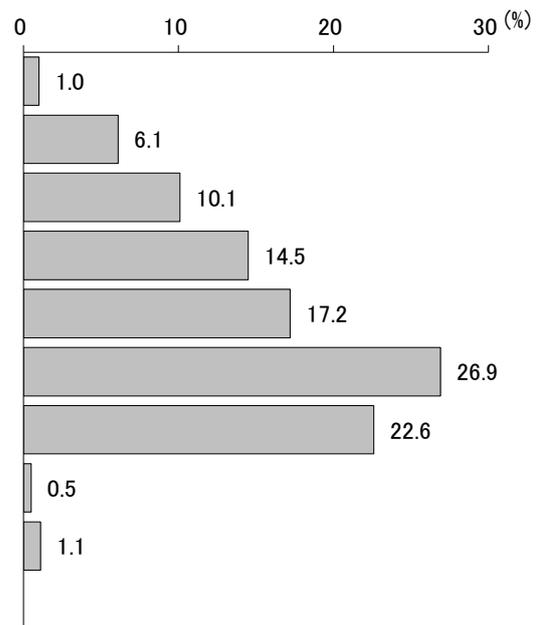
<性別>

	基数	構成比
男性	800	33.9%
女性	1,527	64.7%
無回答	34	1.4%
全体	2,361	100.0%



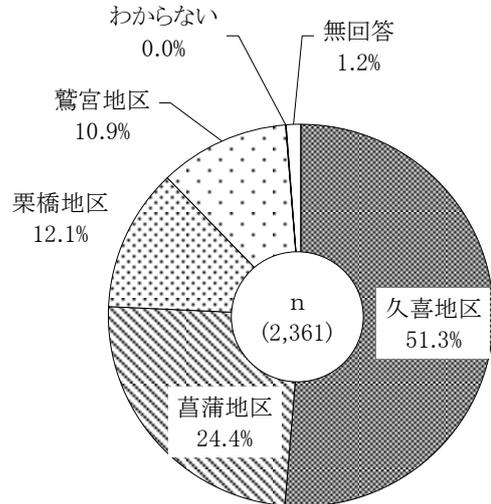
<年齢>

	基数	構成比
19歳以下	23	1.0%
20～29歳	143	6.1%
30～39歳	239	10.1%
40～49歳	342	14.5%
50～59歳	406	17.2%
60～69歳	636	26.9%
70～79歳	533	22.6%
80歳以上	12	0.5%
無回答	27	1.1%
全体	2,361	100.0%



<居住地区>

	基数	構成比
久喜地区	1,212	51.3%
菖蒲地区	576	24.4%
栗橋地区	285	12.1%
鷺宮地区	258	10.9%
わからない	1	-
無回答	29	1.2%
全体	2,361	100.0%



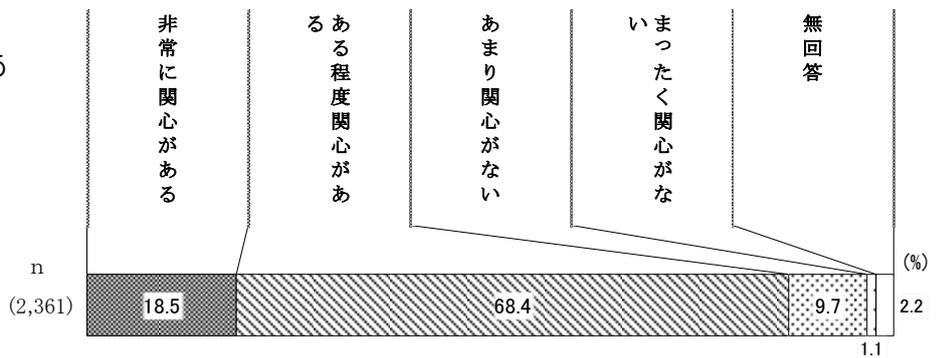
○ごみ減量やリサイクルの意識

(1) ごみの減量やリサイクルへの関心度

問1 ごみの減量やリサイクルに関心がありますか。(1つに○)

『関心がある』との回答は86.9%、
『関心がない』との回答は10.8%である。

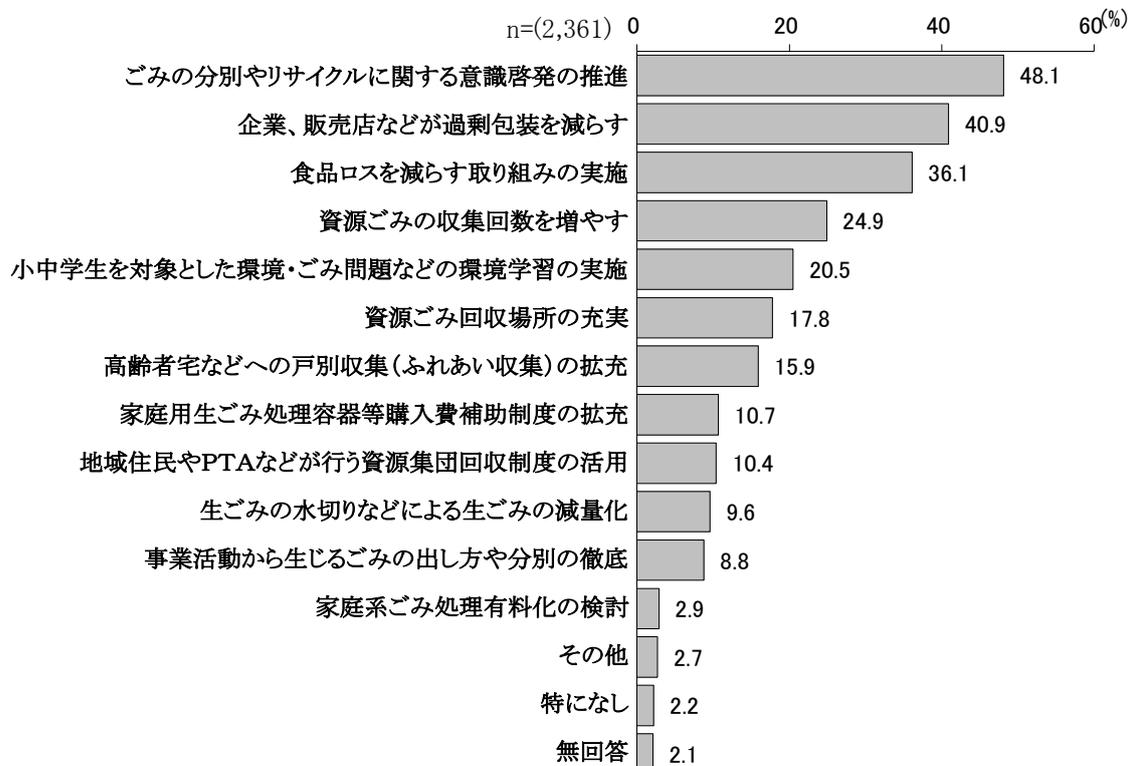
※『関心がある』
= 「非常に関心がある」 + 「ある程度関心がある」
『関心がない』
= 「あまり関心がない」 + 「まったく関心がない」



(2) ごみの減量やリサイクルを進めるうえで重要なこと

問2 ごみの減量やリサイクルを進めるうえで特に重要だと思うことはなんですか。
(〇は3つまで)

「ごみの分別やリサイクルに関する意識啓発の推進」48.1%が最も高く、次いで「企業、販売店などが過剰包装を減らす」40.9%である。



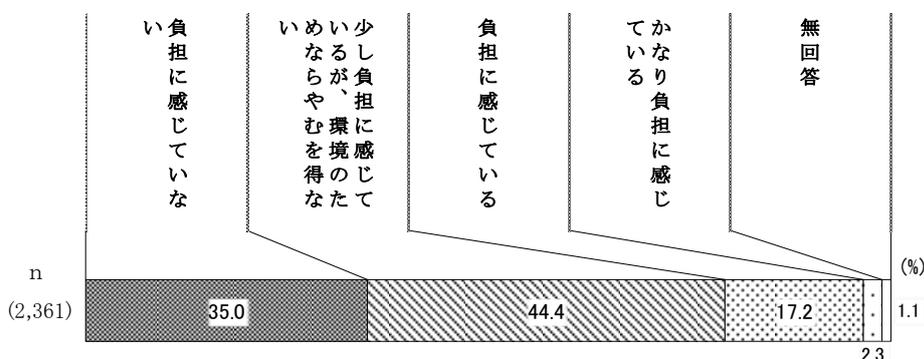
〇ごみの出し方や分別の負担感

(1) 現在のごみの出し方や分別での負担感

問3 現在のごみの出し方や分別を負担に感じていますか。(1つに〇)

『負担に感じていない』との回答は79.4%、『負担に感じている』との回答は19.5%である。

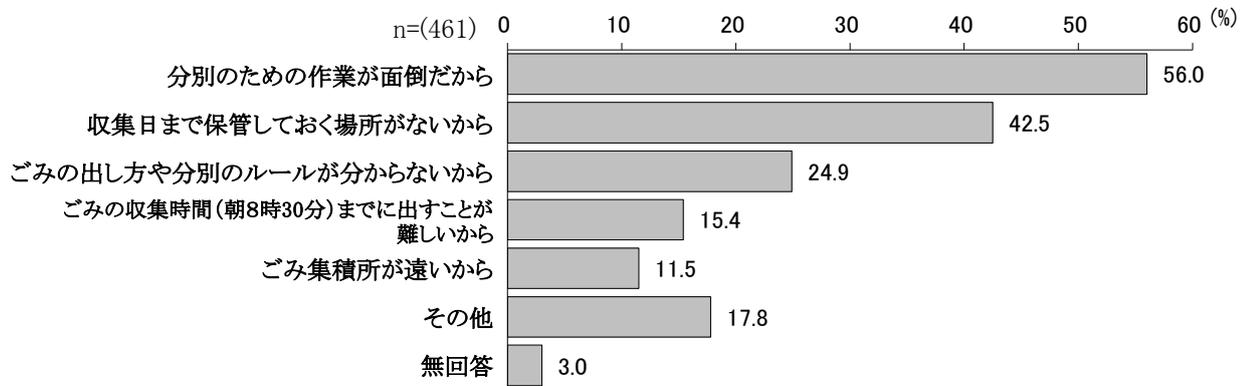
※『負担に感じていない』
= 「負担に感じていない」+ 「少し負担に感じているが、環境のためならやむを得ない」
『負担に感じている』
= 「負担に感じている」+ 「かなり負担に感じている」



(2) ごみの出し方や分別を負担に感じている理由

《問3で「3. 負担に感じている」又は「4. かなり負担に感じている」とお答えの方に伺います。》
問3-1 ごみの出し方や分別を負担に感じている理由はなんですか。(あてはまるものすべてに○)

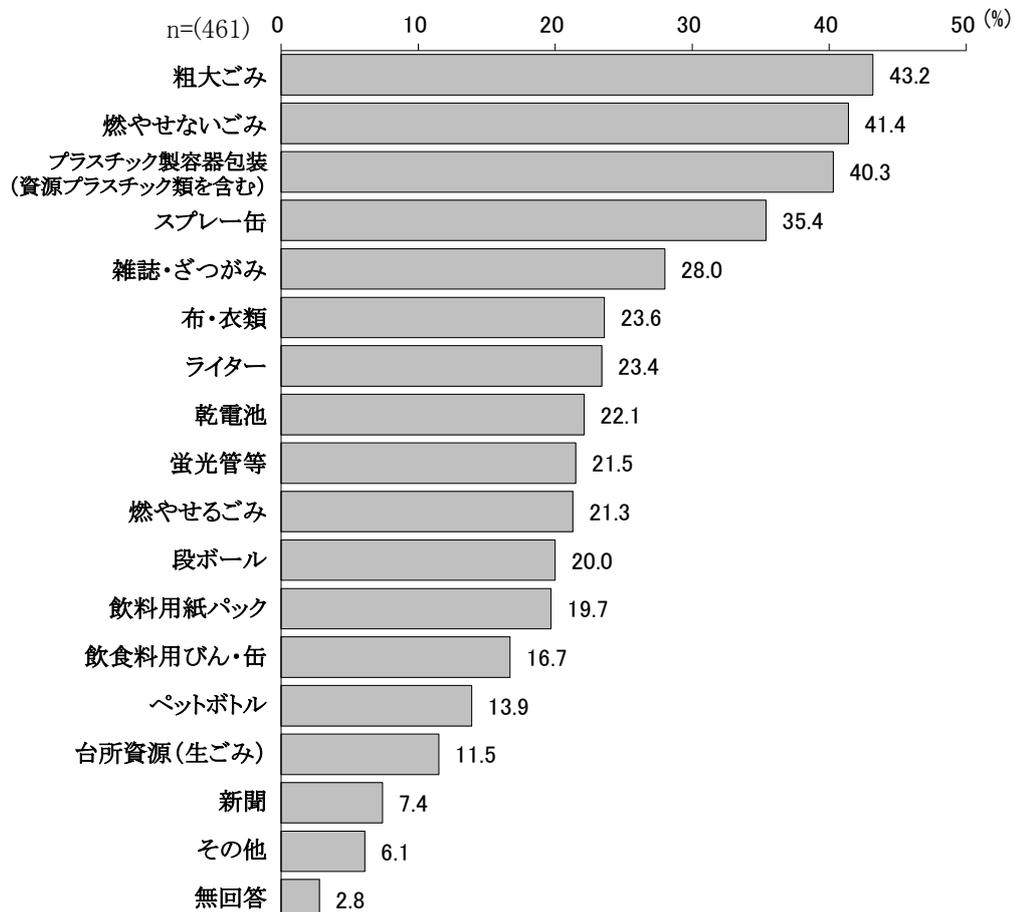
「分別のための作業が面倒だから」56.0%が最も高く、次いで「収集日まで保管しておく場所がないから」42.5%である。



(3) 出し方や分別を負担に感じているごみ

問3-2 出し方や分別を負担に感じているごみはなんですか。(あてはまるものすべてに○)

「粗大ごみ」43.2%が最も高く、次いで「燃やせないごみ」41.4%、「プラスチック製容器包装(資源プラスチック類を含む)」40.3%である。

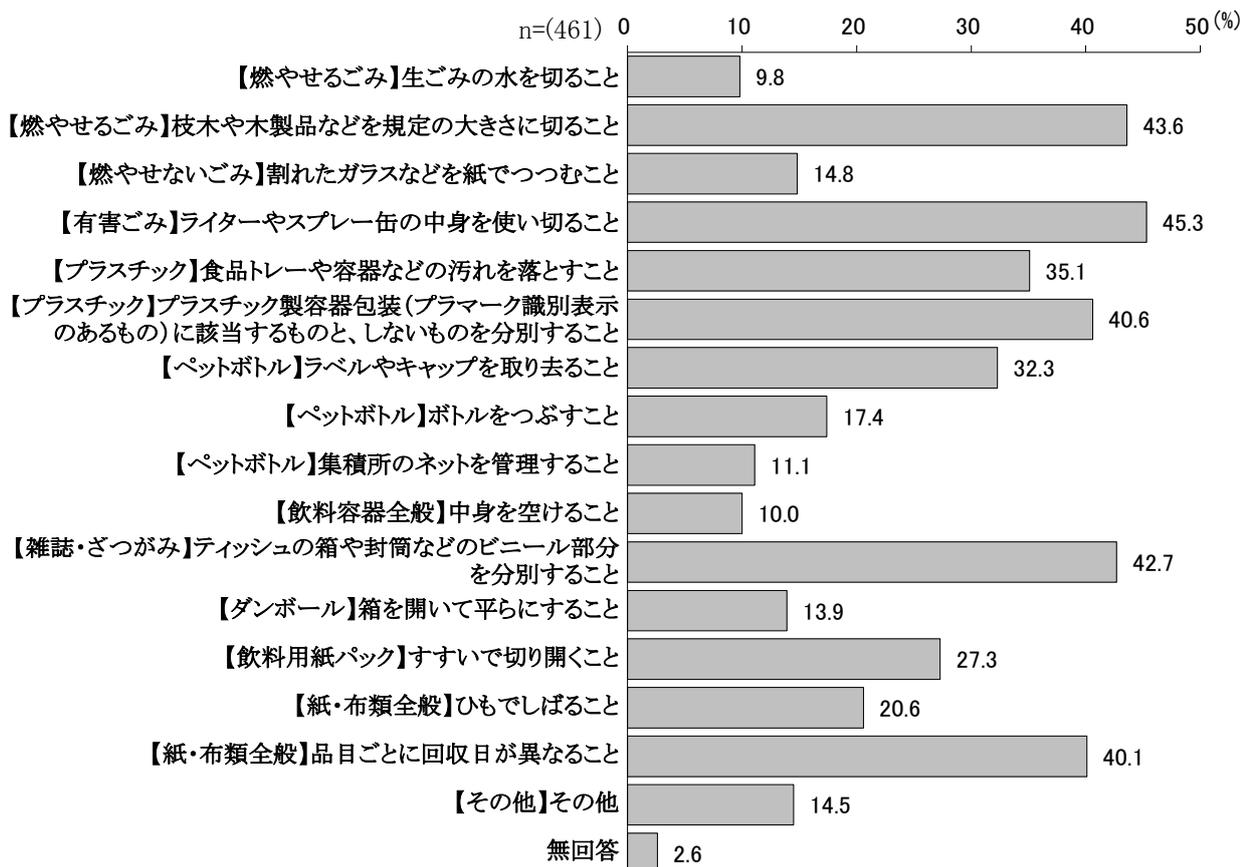


(4) 出し方や分別で負担と感じていること

問3-3 出し方や分別を負担に感じているごみについて、具体的にどのようなことを負担と感じていますか。(あてはまるものすべてに○)

※一部の選択項目については、実施していない地区があります。

「【有害ごみ】ライターやスプレー缶の中身を使い切ること」45.3%が最も高く、次いで「【燃やせるごみ】枝木や木製品などを規定の大きさに切ること」43.6%、「【雑誌・ざつがみ】ティッシュの箱や封筒などのビニール部分を分別すること」42.7%である。

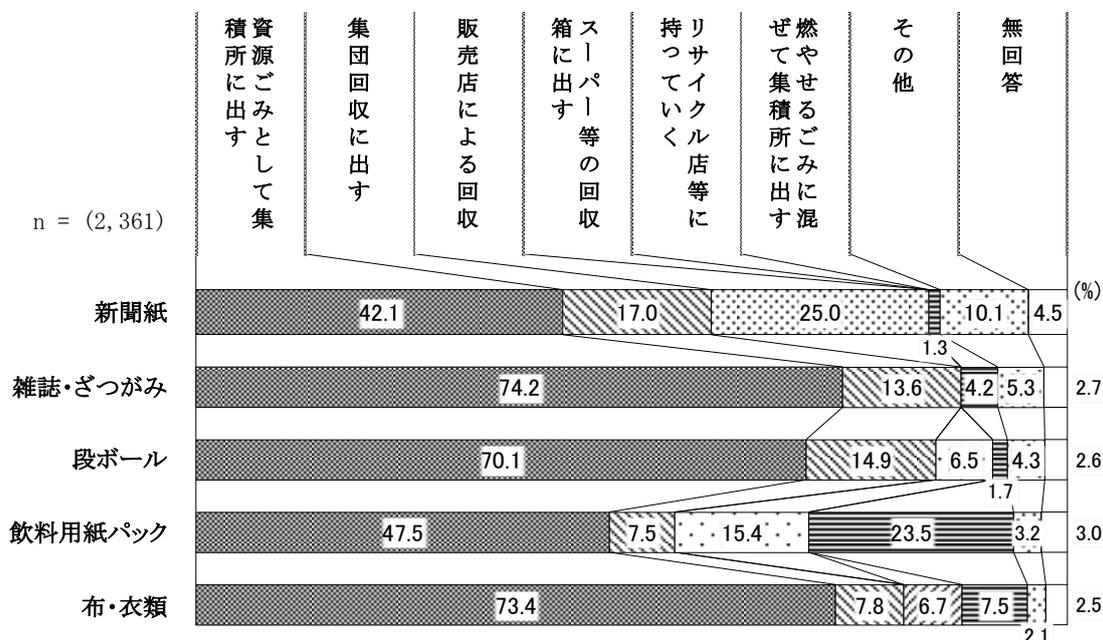


○ごみの出し方や分別の取組状況

(1) 資源ごみの出し方

問4 資源ごみをどこに出していますか。(それぞれ1つに○)

いずれの資源ごみも「資源ごみとして集積所に出す」が最も高く、雑誌・ざつがみ、段ボール、布・衣類では70%以上である。

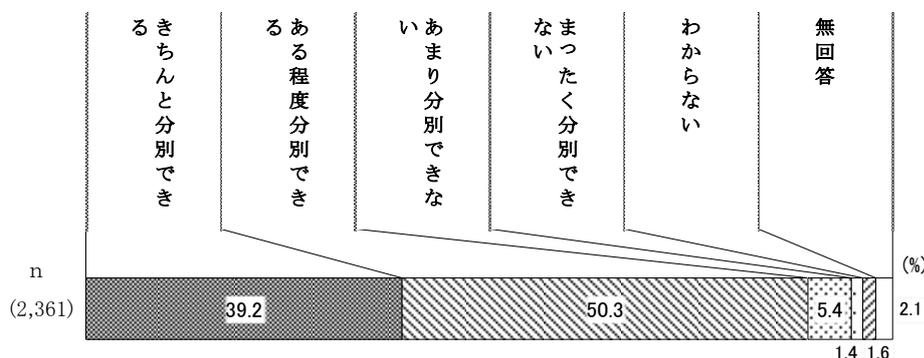


(2) びん・缶、ペットボトル、プラスチック製容器包装の分別

問5 びん・缶、ペットボトル、プラスチック製容器包装 (表示のあるもの) は、それぞれ分別することで、より有用な資源として活用することができます。仮に、それぞれを分別することになった場合、分別をどの程度できると思いますか。

『分別できる』との回答は89.5%、
『分別できない』との回答は6.8%
である。

※ 『分別できる』
= 「きちんと分別できる」 + 「ある程度分別できる」
『分別できない』
= 「あまり分別できない」 + 「まったく分別できない」

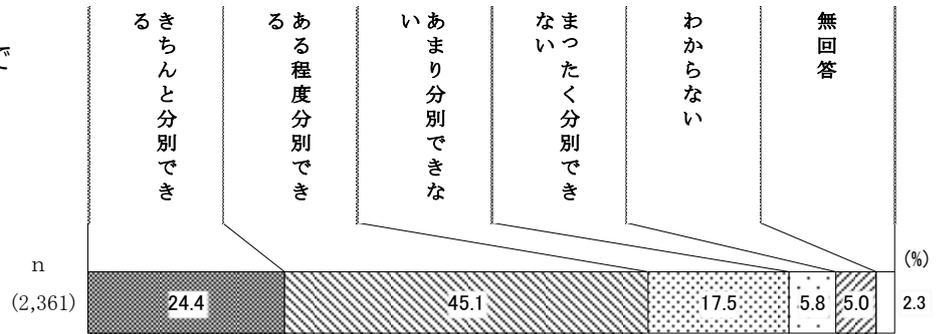


(3) 台所資源（生ごみ）と燃やせるごみの分別

問6 台所資源（生ごみ）は、燃やせるごみと分別することで、資源化等に活用することができます。仮に、生ごみを燃やせるごみと分別することになった場合、生ごみの分別をどの程度できると思いますか。

『分別できる』との回答は69.5%、
『分別できない』との回答は23.3%
ある。

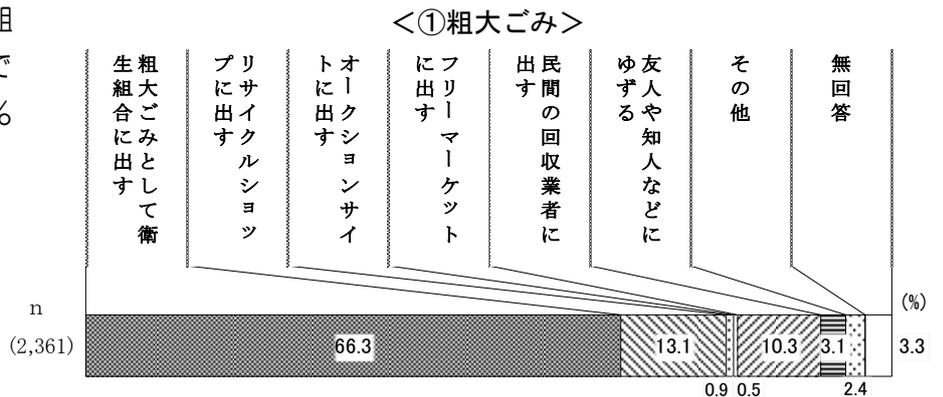
※『分別できる』
= 「きちんと分別できる」 + 「ある程度分別できる」
『分別できない』
= 「あまり分別できない」 + 「まったく分別できない」



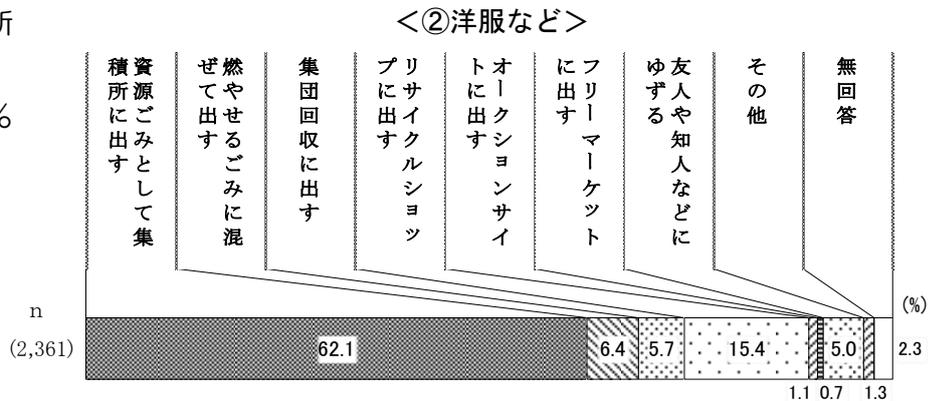
(4) 使えそうな不用品の出し方

問7 まだ使えそうな不用品をどこに出していますか。（それぞれ1つに○）

粗大ごみは、「粗大ごみとして衛生組合に出す」66.3%が最も高く、次いで「リサイクルショップに出す」13.1%である。



洋服などは、「資源ごみとして集積所に出す」62.1%が最も高く、次いで「リサイクルショップに出す」15.4%である。



ごみの出し方や分別に関する市民意識調査 報告書【概要版】

発行：久喜市 環境経済部 ごみ処理施設建設推進課（平成30年3月）
住所：〒346-8501 久喜市下早見85番地の3 電話 0480-22-1111（代表）